

# がいろめ倶楽部たより

第25号



## 2018年9月以降の講演会、茶会、研修旅行のご案内

### ◆ 瀬戸市:せとコラボレーションプログラム

瀬戸市が「きっと恋する六古窯—日本生まれ日本育ちのやきもの産地」として、他の5つの産地と共に日本遺産に認定されました。

そこで、私達 NPO 法人やきもの文化と芸術振興協会では、この9月から瀬戸市と協働(せとコラボレーションプログラム)で、六古窯にポイントを置いた、初級講座も加えた拡大版の「やきもの」の講座を行うことにしました。平安時代から今も連綿と続くやきもののみならず瀬戸と共に、他のやきもの産地についても知って頂く「六古窯」講座となっています。

### ◎ 「やきもの事始め」—初級講座(参加無料)

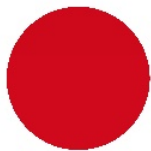
「日本遺産 六古窯、せともの、民吉を読み解こう」6回連続講座

パーティせとでの座学の他に、陶磁美術館での展示説明や瀬戸市内の遺跡巡りがあります。(詳細はチラシをご覧ください)定員70名

主な会場:パーティせとマルチメディアルーム

時間:各日 13:30~15:00

|     |           |                |        |
|-----|-----------|----------------|--------|
| 第1回 | 9月22日(土)  | 「六古窯について」      | 浅田 員由氏 |
| 第2回 | 10月20日(土) | 陶磁美術館展示室(実物鑑賞) | 浅田 員由氏 |
| 第3回 | 11月17日(土) | やきもの 巡り歩き      | 観光協会、他 |
| 第4回 | 12月15日(土) | 「常滑、越前、信楽」     | 中野 晴久氏 |
| 第5回 | 1月19日(土)  | 「瀬戸のやきもの」      | 仲野 泰裕氏 |
| 第6回 | 2月9日(土)   | 「加藤民吉について」     | 服部 文孝氏 |



日本遺産のまち  
瀬戸市

## ◎「日本遺産 六古窯をもっと知ろう」—上級講座（参加無料）

瀬戸以外のやきもの産地の方をお招きしお話を聞きます。

愛知県陶磁美術館 講堂での座学です。（定員 200 名）

会場：愛知県陶磁美術館 地下講堂

時間：各日 13:30～15:00

|       |              |       |        |
|-------|--------------|-------|--------|
| 第 1 回 | 9 月 16 日(日)  | 「丹波焼」 | 長谷川 眞氏 |
| 第 2 回 | 10 月 7 日(日)  | 「常滑焼」 | 中野 晴久氏 |
| 第 3 回 | 10 月 14 日(日) | 「越前焼」 | 中野 晴久氏 |
| 第 4 回 | 2 月 2 日(土)   | 「信楽焼」 | 畑中 英二氏 |

## ◎ 丹波への研修バス旅行（11/20-21 日 1 泊 2 日）

「六古窯をもっと知ろう」の丹波焼の講座にお越し頂く兵庫陶芸美術館の長谷川眞氏に兵庫県陶芸美術館、立杭窯など現地をご案内いただきます。

出発日：11 月 20 日(火) 1 泊 2 日

20 日 陶磁美術館(7:00)出発＝本郷(7:30-7:40)＝丹波伝統工芸公園 立杭陶の郷＝  
＝篠山市武家屋敷安間家資料館＝ホテル(宿泊) 予定

21 日 ホテル＝丹波古陶館＝兵庫陶芸美術館＝本郷＝陶磁美術館(19:40 頃)帰着 予定  
旅行代金(おひとり)3～4 名 1 室の相部屋にて 36,000 円を予定しております。  
宿泊施設の関係で、最大催行人数は 25 名です。

申込方法等の詳細は、丹波研修旅行の案内チラシをご覧ください。

## ◆ 愛知県陶磁美術館開館 40 周年記念行事 「愛陶茶会」

11 月 3 日(日・祝) 陶磁美術館の開館 40 周年を記念して館の敷地内の茶畑で摘んだ茶葉を使いお茶会が行われます。5 月 20 日に行われた茶摘みに参加された方もおられるでしょう。あの時摘んだ茶葉がお抹茶になります。

茶摘みに参加頂けなかった方も、どうぞ、皆さんでお抹茶を味わいましょう。

詳細は後日、チラシ、館のホームページにてご連絡の予定です。

## ◆ 浅田勉強会 毎月第二木曜日 10時から12時まで

愛知県陶磁美術館本館の展示説明室での気楽に、どなたでもご参加いただける勉強会です。浅田先生になんでもご質問OKです。

今回は9月13日(木)、その次は10月11日(木)です。

## ◆ 愛知県陶磁美術館の企画展

### 「THE YUNOMI 湯のみ茶碗—ちょっと昔の、 やきもの日本縦断旅」展 2018年9月1日(土)から10月21日(日)

(がいろめ倶楽部たよりの紙面の都合上、一点だけ、作品紹介します。)



《瀬戸焼 古瀬戸窯 愛知県》  
「織部写共蓋湯のみ茶碗」  
三代加藤作助 滋賀県立陶芸の森蔵

加藤作助家は御窯屋加藤唐三郎(初代)の三弟景元を家祖とする赤津の陶家である。初代作助(1808-1893)は古作に倣った古瀬戸釉や織部の茶器などを作り、二代は大正天皇の御大典記念に古瀬戸香炉を制作して「古瀬戸窯」の号と金印を賜った。三代は織部焼の名手。その後四代、五代と継承され現在に至る。

神崎副館長から《みどころ案内》を頂きましたので掲載します。

煎茶や番茶など、日常的にお茶を飲む習慣が一般に広まったのは江戸時代中期以降と考えられ、湯のみ茶碗もその頃から使われるようになりました。明治以降は各地の窯で陶磁器制作が盛んになり、地域性豊かで意匠を凝らした様々なものが作られました。本展では、坂口恭逸(さかくちきょういつ)氏が明治末頃から昭和20(1945)年頃にかけて収集した、日本各地の湯のみ約280点をご紹介します。北海道から沖縄まで、各地の技法や名工・作家の技が見どころです。身近で親しみある陶磁器の代表でもあり、お気に入りを見つけ、お楽しみいただければ幸いです。



## 2018年5-7月の活動報告

### ◎ 5月20日「茶摘みと煎茶体験」 愛知県陶磁美術館40周年記念行事

5月20日(日)に「摘茶・製茶・喫茶を楽しむ会」が行われました。予想をはるかに超える300名の応募者の中から抽選で100名の方々にお越し頂き、「愛陶茶園」で茶摘みをして頂きました。摘まれた茶葉は製茶され



抹茶にして11月3日のお茶会で使われます。

茶摘みに続き製茶の作業をしました。



茶畑から摘みたて

の茶葉を電子レンジで乾燥、それを手揉みすること、3回ほどで完成。出来上がったお茶を味わいました。

午後からは、50名程の方々が煎茶手前を体験しました。御煎茶のお師匠さんからお手前の説明、煎茶流のこと、味わい方など、摘みたて、作り立ての御煎茶で、美味しいお茶を本格的お点前でいただきました。



### ◆「海のシルクロードの起点 “寧波”と紹興酒の郷“紹興”を訪ねる旅」へ行ってきました。

5月25日～28日の4日間、

10名で行って来ました。

現地で森達也先生が合流され、豊富な知識と経験をもとに解説いただきました。

### ◆やきもの大学 前期講座

6月3日(日) 午後1時30分～3時

仁清一色絵陶器の完成

7月1日(日) 午後1時30分～3時

乾山と古清水-江戸時代中期までの京焼

講師: 大手前大学教授 岡佳子氏

この分野のご研究第一人者の岡佳子先生に2回連続講座をしていただきました。



### ◆「浅田先生を囲むやきもの談義」

6月14日(木) 午前10時～12時 陶磁美術館 展示説明室

テーマは、「朝鮮半島のやきもの」でした。(参加者18名)

発行元 : 「NPO 法人 やきもの文化と芸術振興協会」事務局

住所 : 〒489-0875 瀬戸市緑町2-43

お問い合わせ: 電話番号: 090-5850-6969 (谷)

メール : yakimono.bunka@gmail.com

ホームページ: <http://yakimonobunka.jimdo.com/>

郵便振替口座: 記号番号 00890-9-152071

加入者名 トク) やきもの文化と芸術振興協会